



目次

- \* TOPICS
- \* 調査・企画部門
- \* ヒューマンリソース部門
- \* ユビキタスリサーチ支援部門
- \* 書籍出版
- \* 今後の行事予定

平成18年7月にスタートした女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクトも2年目に入っています。初年度のU-リサーチャーのためのテレビ会議システムの設置・始動やシンポジウムの開催、科学教室の実施など順調に事業展開をすすめています。

ヒューマン・リソース支援部門で進めているeポートフォリオでは、eラーニング大賞で文部科学大臣賞を受賞する榮譽に浴しました。次世代育成のための科学教室やサマースクールでは、前年にも増しての参加者を迎え成功裏に開催することが出来ました。

本年度の初めに卒業生の方々に依頼をしたアンケートには、400名近くの方からの回答があり、理系を卒業してよかったという方が8割を占めたという結果が得られました。このことはマスコミにも取り上げられましたのでご覧になった方も多いかと思います。ここでは結果についてももう少し詳しく報告いたします。

また、理系学科を卒業して生き生きと働いている女性の方々のなまの姿を綴った本、「光できらめく理系女性たち」が本プロジェクトのリーダーである小舘香椎子教授監修で出版されました。これらのトピックスなどを含めて、ニュース・レター第2号をお届けします。

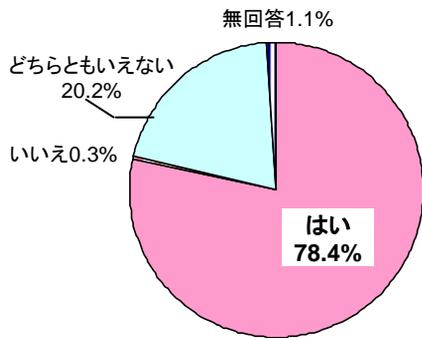
TOPICS

～卒業生へのアンケート結果報告～

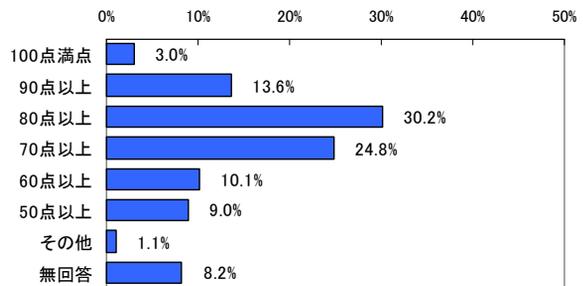
「『理系でよかった』8割」日本女子大卒業生調査 (2007年9月3日 朝日新聞朝刊27面)

本学の家政理学科と理学部の28～47歳の卒業生を対象に理系を学んだ女性の卒業後の現状についてアンケート調査を行ない、分析をしています。367名の得た回答から浮かび上がるのは、一言でいえば“理系女性は元気”ということです。本学のアンケート結果の注目度は大変高く、平成19年9月3日朝日新聞朝刊27面に「『理系でよかった』8割」という大変分かり易い見出しで内容の一端が紹介されました。今の生活の充実・満足度(100点満点)は70点以上が72%で「理系を選択してよかった」も79%、理系離れが声高に叫ばれる昨今、良さが発揮された事例として大きな反響を呼んでいます。

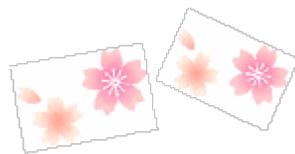
<あなたは理系を選択してよかったと思いますか？>



<今の生活(仕事、家庭含む)の充実・満足度は何点ですか？>



アンケートは、約20年間の卒業生から任意に抽出して行ないました。配偶者(パートナー)のいる人は76%で、子供のいる人は全体の65%でした。現在フルタイムの形で仕事についている人は46%、パートタイムは13%でした。今後も現在の職を継続しようと思っている人は53%でした。勤続年数が11年以上の人が30%にのぼっていることは理系の専門性が生かされ能力が発揮できているとして注目される点です。また、29%の専業主婦の自由記述の回答から、“理系の考え方や技術は生活のあらゆるところで生きている、理系の知識は子供の勉強にとっても役に立つ、”などが目立ち、今は専業主婦である人も“理系で良かった”と考えていることがうかがえます。延いては“今の生活の充実・満足度”70点以上が72%となったことに繋がっていると思われます。



# 調査・企画部門

次世代育成のための科学教室を今年度も数多く企画、開催しています。夏休み期間に開催した科学教室は、非常に関心が高いようで、参加申込開始後すぐに定員に達しました。また、夜間に実施する天体観測の講座を初めて開催しました。

## ～サマースクール2007.8.2-9～

最先端の科学や技術に触れることで、女子中高生の科学への夢を育み、進路選択の幅を広げてほしいと、この夏も理学部との共催でサマースクールを開催しました。本年のサマースクールは産経新聞の取材を受け、平成19年8月6日の朝刊「増やせ！理系女子 大学が中高生対象にサマースクール」という記事の中で、その様子が紹介されました。

今年のサマースクールでは、平成19年8月2日から9日にわたって全16講座が開講され、202名の参加がありました。

「バナナで釘」、「クレオパトラ」、「虹」、「楽譜」などの題名が示唆するように、中高生が先端科学に親しめるよう、各先生方が工夫を凝らした内容でした。「わー、いい匂い」、「あー、声が変わった！変な声」、「何なの、この曲！面白い！」参加した皆さんは、時々歓声をあげながら、普段の授業とは少し違った講義や実験に、真剣にそして楽しそうに取り組んでいました。



サマースクールの様子

### 講座の分野とテーマ

数学	結び目～絡まった輪っかの幾何学 円周率 $\pi$ の不思議	物理	複雑液体の世界を身近な物質を通して体験してみよう 低温の世界～バナナで釘を打つ！ 光ファイバー～光通信の世界
生物	細胞に遺伝子を導入する ミクロの世界の造形美 つばみ培養によるバイオフラワーづくり 植物のオスメスとその出会いを観る アフリカツメガエルの受精と発生 世界のフルーツ～どこを食べているか確かめよう	化学	虹をつくる科学 大地の歌～X線による土の元素分析と元素スペクトルからの楽譜作成 クレオパトラの美容術～粘土パックと吸着の化学 七宝を焼こう 分子のかたちの不思議～香りの特集

## ～中学生の科学教室2007.8.25～

電子情報通信学会との共催で中学生を対象とした科学教室「不思議いっぱい科学の世界！」を平成19年8月25日に開催しました。

第1部 太陽系の姿／第2部 液晶の科学、2つの講座が開催され32名の参加がありました。天体観測を行うために夕方からの開催でしたが、参加した中学生は熱心に講師の話聞き目を輝かせながら観測や工作に取り組んでいました。



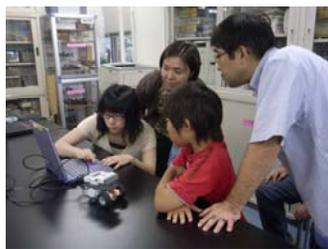
修了証書を手に

## ～夏休み自由研究シリーズ2007.8.18-30～

日本女子大学生涯学習センター（LCC）との共催で小学生を対象とした科学教室を平成19年8月18日から30日に開催し、全6講座に114名の参加がありました。身近な材料を使った工作実験から高度な機器を用いた体験実験まで、親子で楽しみました。「楽しいロボットづくり」では、はこだて未来大学准教授 ピトヨハルトノ先生、「凧はなぜ揚がる？」では日本カイトフォトグラフィー協会会長 室岡克孝先生をお招きしました。



光がつくる3次元の世界



楽しいロボットづくり



凧はなぜ揚がる？

# ヒューマンリソース部門

多様なキャリアパスを受け入れ、多様なキャリアパスで送り出すための支援として、研究者の経歴やスキル、業績などをeポートフォリオに蓄積し、これを有効活用するシステムが第4回日本eラーニング大賞において文部科学大臣賞を受賞しました。また、キャリア支援・相談窓口設置の一環である自己分析セミナーの開催など、新たなイベントも非常に高い関心を集めています。

## ～「ポートフォリオを活用した人材育成システム」が

### eラーニング大賞(文部科学大臣賞)受賞2007.8.1～

「ポートフォリオを活用した人材育成システム～目指すロールモデルに向かって学ぶ～」が第4回日本eラーニング大賞に応募した全国の380件から文部科学大臣賞に選ばれ、平成19年8月1日に東京ビックサイトにおいて授賞式(小館香椎子教授、小川賀代講師らが出席)が行われました。このシステムは、卒業生・現役生の多様な学習活動データをeポートフォリオ蓄積し、ロールモデルとの比較分析から学習ガイダンスや就職ガイダンスをオンデマンドに提供していきます。本学のU-リサーチャー、研究助手のマルチキャリアパス支援への適用に向けた準備も進めており、今後の効果的な活用が期待されています。(写真①)

## ～自己分析セミナーの実施2007.6.30～

平成19年6月30日の13:30～17:00にマルチキャリアパス推進室にて、将来のキャリアパスを考える相談窓口の1つとして、自己分析セミナー(効き脳診断)を実施しました。急遽、入場者制限をかけるほど予想以上の学生が集まり、今まで気がついていなかった自分の特徴や、就職した場合の仕事内容の向き不向きなどの分析結果に一喜一憂でした。自己診断テストはeポートフォリオシステムからも実施できるように開発を進めていく予定です。(協力:フォルティナ株式会社、テンプスタッフ株式会社)(写真②)

## ～名古屋大学共催シンポジウム「未来はココから始まる」の開催2007.7.28～

平成19年7月28日に本学と名古屋大学の共催で、シンポジウム「未来はココから始まる」を茨城県つくば市のつくば国際会議場にて開催しました。会場周辺の研究所で働く女性研究員をはじめ100名を越える参加がありました。小館香椎子教授により「女性研究者の活躍のために」というタイトルで講演が行われ、本プロジェクトの概要やU-リサーチャーの実例などを紹介し、活発な質疑応答がなされました。博士号取得後の女性研究者・技術者の能力活用についても議論がなされ、シンポジウム終了後に相談会を開催しました。(写真③)



①eラーニング大賞授賞式にて



②自己分析セミナー当日の様子



③シンポジウム会場の様子

## ～展示会への出展～

本プロジェクトの取り組みや本学で行われている研究を学外へアピールするために、各種展示会にも参加しています。

**2007. 6. 6-8 光ナノテクフェア2007** 於：パシフィコ横浜  
研究紹介の展示と共に、本プロジェクトの取組みの紹介も行いました。

来場者数は、3日間で9,948人、本学の出展ブースには3日間で1,500人を越える方が訪れました。省庁関連の方も大勢いらして下さり、大変好評でした。

**2007. 8. 3-4 「応用物理」創刊75周年記念事業**  
**暮らしを支える科学と技術展 ―世界を変える応用物理―**  
於：科学技術館

記念講演会、特別講演会や、5つの公共機関、16の企業、28の大学、26の高専・高校が出展した展示発表、理工工作教室が行われました。

本学も本プロジェクトの紹介、応用物理学会副会長である小館香椎子研究室の研究を中心に展示を行いました。来場者は2日間で8,000人以上にのぼり、家族連れや小中高生で大変盛況で科学・技術の成果を十分にアピールできました。

**2007. 6. 16-17 第6回京都産学官連携推進会議**

於：国立京都国際会館

本プロジェクトの紹介と本学で採択されている競争的資金の研究テーマについて出展を行いました。

会場では300以上の団体が展示発表を行っており、4,000人を越える人々により、産学官の交流が積極的に行われました。

**2007. 9. 12-14 イノベーションジャパン2007-大学見本市**

於：東京国際フォーラム

産学官連携の実質かつ着実な進展を図るために開催されたイノベーション・ジャパン2007「大学見本市」においてブースを出展し、また、講演会において小館香椎子教授、渡邊恵理子客員講師がプレゼンテーション発表を行いました。

3日間の会期中4万人を越える来場者数を記録し、日本女子大学ブースにも経産省局長、荻原政務官を含め、約1,000人以上が訪れ、マルチキャリアパスへの関心も高く、産学官連携推進を目指した活発な意見交換、議論を行いました。

# ユビキタスリサーチ支援部門

昨年度に引き続きU-リサーチャーの支援として、テレビ会議システム増設や多地点双方向からのアクセスを可能にする環境を整えています。また、学内のさくらナースリーや学外の託児施設と協力し、保育システムの充実を図っています。

## ～保育の整備～

### NPO法人と連携して

#### 病児保育支援をはじめました！

実験系の研究者にとって予定していた実験を中断することは、非効率的なだけでなく、貴重なデータの入手を逃すことにもつながります。学会発表・講演など、休めない仕事が入っているかもしれません。しかし、子どもの突然の病気はよくあることであり、育児中の研究者に病児保育は切望されていました。

本プロジェクトでは、NPO法人フローレンスとパートナーシップ法人契約を結び、病児保育支援を開始しました。当日の朝電話しても、100%自宅にかけつけてくれる心強いサービスです。非施設型の病児保育支援をはじめた大学は、日本初です。



第2回シンポジウム時の保育の様子

### 常設保育・一時保育など

#### 万全の保育体制が整っています！

1970年に学内保育施設のさくらナースリーは誕生しました。精神・実質両面からの温かい支援体制には定評があり、これまで多くの女性研究者の研究継続を支えてきました。現在では一時保育も行っており、自宅で研究継続しているU-リサーチャーが時々大学に向いて研究を行うなど、有効に活用されています。さらに、本学生涯学習総合センター（LCC）でも、講座・講演会への参加者に対して一時保育（イベント保育）サービスを行っています。このような既設の保育施設と連携しながら、本プロジェクトでは様々な要望に応えられる万全の保育体制をめざしています。

#### 日本女子大学の保育体制

- ・常設保育  
さくらナースリー：月～土、夕方6時半まで
- ・一時保育  
さくらナースリー：月～金、夕方5時半まで 1時間1,050円
- ・イベント保育  
ロイヤルベビーサロン：講座や講演会参加者への一時保育
- ・病児保育  
NPO法人フローレンス：非施設型病児保育

## 書籍出版

### 光できらめく理系女性たち —理想のワークライフバランスを目指して—

SciencePortal（科学技術振興機構）と科学新聞（2007年9月21日8面）で紹介されました

社会の多様な分野で個性を活かしながら活躍している理系出身の女性の実像に焦点をあて、仕事と育児・介護との両立を目指して働く臨場感あふれる例として、現在大学や企業などで働く女性研究者・技術者30人以上の体験を紹介しています。さらに、これら理系女性の活躍を支援する産・学・官の取り組みのほか、巻頭言として元文部科学大臣の遠山敦子氏をはじめ、有識者からの理系女性に贈る激励のメッセージ、そして、これまで女性研究者・技術者を多数輩出している小館研究室の紹介とその在学生、卒業生に行ったアンケート調査の結果報告も掲載しています。

本書の副題には「理想のワークライフバランスを目指して」と掲げています。ある人にとって理想とするワークライフバランスは、その個人の価値観によりますが、本書には多くの理系女性のキャリア形成過程が紹介されており、自らのキャリアと生活について考える際の参考となる内容です。是非ご一読ください。



監修：日本女子大学理学部教授 小館 香椎子  
発行：オプトロニクス社（定価 1,890円）

## 今後の行事予定

- 2007. 9. 29 4女子大学（日本女子大学、お茶の水女子大学、東京女子医科大学、奈良女子大学）合同シンポジウム「理系女性から発信！ワーク・ライフ・バランス社会へ」 於：日本女子大学新泉山館1階大会議室
- 2007. 10. 5 第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「真の男女共同参画へ向けて意識を変えよう！」 於：名古屋大学野依記念学術交流館、野依記念物質科学研究館（ポスター展示）
- 2007. 10. 27 理系5女子大学シンポジウム「女子高校生のためのサイエンスフェスティバル」未来が求める、科学(しなやか)な感性 於：お茶の水女子大学
- 2007. 12. 8 電子情報通信学会共催のシンポジウム「将来のICT社会を支える女性たちへ」～企業で活躍する先輩からのメッセージ～ 於：日本女子大学桜楓会館3階

発行者 : 日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト推進室  
発行責任者 : 小館香椎子, 遠山嘉一  
住所 : 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学新泉山館2階  
TEL&FAX : 03-5981-4154  
E-mail : mcp@fc.jwu.ac.jp  
URL : <http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/index.html>